

---

○議長（斉藤 重君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 3時05分）

---

◇ 佐藤作行君

○議長（斉藤 重君） 一般質問を続けます。

通告順位5番、佐藤作行君。

（3番 佐藤作行君 登壇）

○3番（佐藤作行君） 通告に従いまして、一般質問を3点ほどお願いいたします。

1番目、第5次総合計画について。①町全体が一体となって産業がさかんなまちづくりについて、具体化に向けた施策と予算付けは。（観光、農林、商工関係）

②健やか安心して暮らせる福祉の町づくりに向けた施策と予算付けは。（地域福祉、高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉）

③人口減少対策の施策と予算付けは。

大きい2番です。平成25年度予算について。①津波避難タワーについての詳細は。（予算、建設地、途中経過は）

②有害鳥獣対策についての詳細と予算、想定効果をお願いします。

大きい3番、平成24年度予算回答について。小さい1番、これは今年の今頃私は、この席で質問しましたけれども、いろいろ質問したわけですが、当時はまだ骨格も決まっていなくて、不明とか、わからないところが多かったものですから、補足させていただきます。

①伊豆トレイルランニングレースの質問においての不明、未定だった部分の回答について。

前の回答と10日に行われる決定の方と違ってきた部分の経緯と理由の説明をお願いいたします。以上で壇上からの質問を終わります。

○町長（齋藤文彦君） 佐藤作行議員の一般質問にお答えします。

1. 第5次総合計画について。

①「町全体が一体となって産業がさかんなまちづくりについて、具体化に向けた施策と予算付けは。（観光、農林、商工関係）」についてであります。

松崎町第5次総合計画に基づく平成25年度の施策につきましては、施政方針の中で6つの柱の中で主なものを述べさせていただいたところでございますが、もう少し具体的な形で回答させていただきたいと思っております。

「観光の振興」では、観光施設整備事業として岩地公衆トイレの改築工事等に1660万円、誘客宣伝事業として交通機関等の共同宣伝、メディア媒体を活用した情報提供、観光振興を推進するための団体への補助金で880万円を措置し、誘客を図ることとしております。

また、「農林漁業の振興」では、全町まるごとふるさと自然体験学校を目指す、グリーンツーリズム推進事業 590 万円、林業再生のための間伐促進・里山保全に 1860 万円、耕作放棄地対策に 600 万円、農業後継者対策としての奨励金・就農給付金に 500 万円、鳥獣被害対策に 360 万円、農業の基盤整備事業費 2 億 1200 万円の負担金 2872 万円などを予算措置しております。

「商工業の振興」では、住宅改修事業補助金 600 万円の継続、俳句の町事業に 230 万円や、平成 24 年度をもって終了となる緊急経済対策融資資金利子補給、中小企業災害対策資金利子補給を再編し、新たな補給制度を設立し、平成 25 年度に 300 万円を措置し、中小企業者の経営の安定化を図ってまいることになっております。

②「健やか安心して暮らせる福祉の町づくりに向けた施策と予算付けは（地域福祉、高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉）」についてであります。

少子化・高齢化が進む中で、人との交流の機会が少なくなり、話し相手や相談相手がなく孤独になりがちな時代になりましたので、交流の場や話し相手の人材を作り、活動の支援をしていきます。

また、子どもや高齢者が重篤な病気にならないで、いつまでも健康な生活を送れるように支援をしていきます。

そのための具体的な事業ですが、高齢者や子育ての母親の話し相手になるボランティアの活動を支援し、子育て世代や、低所得者の経済的負担の軽減を図るため、子どもの医療費 1620 万円、障害児・障害者の医療費 2276 万 7000 円、母子家庭等の医療費助成 121 万 8000 円、こどもや高齢者のインフルエンザワクチン 215 万 8000 円や肺炎球菌ワクチンの接種費 39 万円の助成を継続していきます。

また、高齢者が介護状態にならないで、いつまでも元気で地域で暮らせるよう介護予防事業費 543 万 7000 円を介護保険会計に計上しております。

③「人口減少対策の施策と予算付けは」についてであります。

1 月 25 日開催の第 1 回臨時会でご承認いただきました松崎町第 5 次総合計画では、平成 34 年度に 6200 人程度と予測される人口を、あらゆる分野において魅力ある施策を展開し、減少の抑制に努め、目標を 7000 人と設定させていただいたところでございます。

人口の減少抑制のためには、農林水産業の基盤整備や後継者育成対策、6 次産業化の推進、商工業・観光業の振興を通じて、住民の雇用の場の創出・確保をするとともに、町の情報を積極的に発信し、町外からの定住者を増やしてまいりたいと思います。

また、出生数を減らさないよう、子ども医療費の充実など安心して子育てができる環境づくりを図るとともに、安心して暮らせるよう福祉や医療体制の確保に努めてまいりたいと考えております。

なお、施策や予算につきましては、1 番、2 番でご回答させていただいた内容と重複いたしますので、ご回答は省略させていただきます。

①「津波避難タワーについての詳細は。(予算、建設地、経過は)」についてであります。

現在ご承知のとおり、静岡県では、南海トラフを震源とする巨大地震の被害想定も考慮した、第4次地震被害想定を本年6月を目途にとりまとめ、公表するとしております。

また、2月13日公表の県の第4次被害想定の中間報告では、「レベル1」の発生頻度が比較的高く、発生すれば大きな被害をもたらす地震・津波と、「レベル2」の発生する頻度は極めて小さいが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波のそれぞれの津波高の推計結果が示されております。

町といたしましては、津波避難タワーについては、地区に避難場所となる高台や建物がない避難困難地区に、レベル2に対応する規模のものを整備する考えでおります。しかし、現段階では県の被害想定において、津波避難タワー建設で考慮が必要な「浸水深」が明確にされておられませんので、更なる検討が必要な状況でございますが、平成25年度予算では津波避難タワー1基分の関連経費を予算計上しております。

②「有害鳥獣対策についての詳細と予算は。想定効果は」についてであります。

有害鳥獣による深刻な農林産物の被害は、農林業者の生産意欲を大きく低下させており、軽減防止対策は喫緊の課題であると認識しております。

静岡県の伊豆地域における特定鳥獣保護管理計画では、平成24年から5年間でニホンジカ推定生息数約2万1000頭を約9000頭に個体数を削減し、イノシシは生息数の推定が難しいため、被害額を約40パーセント減少させることを目指しています。

町の平成25年度予算では、有害鳥獣対策の被害防除、駆除捕獲強化等について重点的に措置し、前年度対比72パーセント増としております。

はじめに、被害防除対策についてであります。

農林業者が自ら農地に電気柵や、ワイヤーメッシュ柵等を設置する経費に対する補助を継続し、予算を150万円に増額確保して、農林産物の被害軽減に努めて参ります。また、捕獲機材等の貸し出しも引き続き行って参ります。

次に、駆除捕獲強化対策についてであります。

猟友会への鳥獣駆除協力事業補助及びサル捕獲奨励金の増額に加え、新たにイノシシ・シカの捕獲奨励金を創設し、駆除予算を170万円に充実確保してまいります。また、捕獲体制の強化を図る上で、狩猟の免許所有者及び従事者の確保が必要であるという観点から、狩猟免許の新規取得者に対する免許取得費用の助成支援を継続して参ります。

以上のことから、農林業者の自ら行う被害防除及び駆除捕獲体制の強化充実による、有害鳥獣の個体数の減少を図ることによって、農林産物の被害軽減に繋げてまいりたいと考えています。

また、鳥獣被害対策では、広域的な連携取組みも必要であることから、賀茂管内の市町、農林事務所、農協等で組織する伊豆地域鳥獣害対策連絡会が主体となって、地域の状況を踏まえた効果的な被害対策に取り組んでまいりたいと考えています。

3. 平成24年度予算回答について。

①「伊豆トレイルランニングレースの質問においての不明、未定だった部分の回答について」

であります。

平成 24 年 3 月定例会の佐藤議員の一般質問の際、内容が不明で未回答であったものは、コース、委員会構成、道路使用許可、関係市町からの補助金額の 4 点であったかと思しますので、それぞれについてご回答させていただきたいと思えます。

コースは、松崎新港をスタートし、宝蔵院、八瀬峠（やせ）、諸坪峠（しょつぽ）、猫越岳（ねっこ）、仁科峠、戸田峠などを通り、修善寺温泉独鈷公園（とっこ）をゴールとする全長 70 キロメートル、標高差 1035 メートルの山岳コースとなっています。

委員会は、松崎町観光協会長を会長に、30 名の委員で構成され、私と伊豆市長が顧問となっています。

道路使用許可等の使用許可につきましては、既に了解をいただいているということでございます。

補助金の額につきましては、松崎町が 300 万円、伊豆市から 50 万円の補助金が出ております。西伊豆町からの補助金はいただいておりますが、西伊豆町観光協会が給水・給食所を担当していただくということで伺っております。

②「前回答と違ってきた部分の経緯、理由」についてであります。

前回、大会開催の時期を秋とご回答したわけですが、11 月に伊豆市と袋井市を会場に第 36 回全国育樹祭が開催されること、11 月末から 12 月上旬は、伊豆市が紅葉のシーズンで対応が難しいこと、12 月から 2 月は、山間部が雪の可能性があること、アドバイザーの楠木毅さんの予定等を勘案し、3 月 10 日（日）に開催に変更しているところでございます。

事業費につきましては、総額 2640 万円の規模とご回答いたしましたが、収入でバス利用料負担金、協賛金、助成金などが増え、支出では送迎バスや備品借上げ代、印刷代などが増え、総額で 3176 万円の規模に変更されております。

以上でございます。

○ 3 番（佐藤作行君） これより一問一答形式でお願いします。

○ 議長（斉藤 重君） 許可します。

○ 3 番（佐藤作行君） 1 番の第 5 次総合計画については、だいたいこんなところでよろしいかと思えます。

それから、2 番に入ります。津波避難タワーについての経過なんですけど、大体理解できました。

それで、先ほども鈴木源一郎さんの回答にまず 1 つ造ってみてから町民の反応などをみて、次にかかりたいということでしたけれども、大変この考え方はいいことだと思います。私も早く 1 基造ってもらいたいというような考えでございましたので、まったく町長の考え方と同じで、大変敬意を表しているところです。

その次の鳥獣害対策についてです。詳細の部分なんですけど、サルとか、シカとか、イノシシ、これの補助金の別個の金額についてお願いしたいと思えます。

○産業建設課長（菊池三郎君） 私の方から若干細かいところをお話させていただきます。大変農林業は有害鳥獣の被害が拡大して、早急に対処していかなければならないという中で、本年度これらの予算の120万円の増額を行いまして、イノシシにつきましては、従来駆除の助成はございませんでしたけれども、1頭あたり7000円ということで、予算50頭分を予定しております。シカにつきましては、イノシシと同じでございます、本年から1頭7000円の駆除費用をもちまして、50頭分の予算を確保しているということでございます。サルにつきましては、従来1万円という駆除助成がございましたが、25年度から2万円、倍額にいたしまして、予算では50頭分を提案しているという状況でございます。

あくまでこれは猟期、通常の猟期内においては対応しないと、それ以外のところで猟友会の皆さんが協力していただいた駆除に対して助成をしていくという考えでございます。

○3番（佐藤作行君） ありがとうございます。

これで有害鳥獣はほかの市町村と大体並んだように思いますが、そんな認識でよろしいですか。

○産業建設課長（菊池三郎君） その駆除の助成の額につきまして、いろいろ郡内を調査いたしまして、郡内でも最上位に位置する額ではないかと思っております。

○3番（佐藤作行君） ありがとうございます。

その次に、3番に入りまして、前回いろいろ、去年質問して、回答が得られなかった部分の回答をいただきました。いろいろありがとうございます。

それで、今年この・・・、せっかく去年予算を盛りまして、トレイルランニングレースですか、伊豆トレイルランニングレースというのをを行うということで、せっかく予算が盛られまして、我われも観光振興ということで、賛成したわけです。

それで、去年いろいろ質問したところ、いろいろ決まっていなかったとか何とかで、具体化していなかった部分が多かったもので、改めて質問するわけです。

それで、あと、いろいろ漏れていた部分がありまして、まず、第一に正式名称ですね。これは前は伊豆トレイルランニングレースですか、そのような説明があったわけですが、正式な名称というのは、どういうものになったのでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 正式名称は「伊豆トレイルジャーニー 第1回伊豆松崎・修善寺間山岳競争大会」というような名称がついております。

○3番（佐藤作行君） これは、去年の話では伊豆トレイルランニングレースが、これがレースがなくなって、ジャーニーとなったんですか。

○企画観光課長（山本 公君） 伊豆半島の山道を使ったジャーニー（旅）というような形ですね。副題でただいま申し上げましたように「山岳競争大会」というような形の中の表記はさせていただきます。

当初はトレイルランニングレースみたいなことと言っておりましたけれども、新しい旅の提案というような意味もありまして、そういうことについているというふうに理解をしております。

○3番（佐藤作行君） そうすると、レースにはレースなんですよ。これは。1番、2番、3番があるわけですね。わかりました。

それから、はじめは雲見から修善寺までというような話でしたが、新港から修善寺というコースになっているようですが、そこらには何かあるのですか。

○企画観光課長（山本 公君） コースの関係につきましては、前回まだ未確定の中で答弁をさせていただいたというような経過があったんだろうと理解しております。警察等々と道路使用の問題等を協議していく中で、現在の新港スタートで宝蔵院を回って、独鈷公園へ行くというようなコースが選定されたものではないかと理解しております。

○3番（佐藤作行君） 次に移ります。あと、松崎から伊豆市へ行く場合に、通る市町というのは西伊豆町、河津町も入るわけですか。

（町長「入っています」と呼ぶ）

○3番（佐藤作行君） 河津町からの協力状況というのは、どんなふうになっているのでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 関連する市町については、後援をいただいているという状況でございます。伊豆市はもちろんゴールになりますので、お手伝いをいただくと、西伊豆につきましては、補助金は出せないけれども、エイドと言うんですか、途中の給水や食べる物を出す所でお手伝いをいただくというようなことでいただいております。河津は河津さくらまつり等々の関係がありましてなかなか対応ができないというようなことではなかったかなと理解をしております。

○3番（佐藤作行君） 去年は実行委員会もまだできていないということでしたので、これは事務局とか、あるいは委員長、副委員長、事務局長とかはわかっていますでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） まず、先ほど町長の方から答弁、一般質問の回答がありましたけれど、顧問に町長と伊豆市長がなっております。会長につきましては、松崎町観光協会会長がなっておりまして、事務局につきましては、観光協会の中に置いているということでございます。副会長につきましては、伊豆市の観光協会会長あるいは西伊豆の観光協会会長さんがなっていると

ころでございます。

あと、実行委員として、関連の町の観光協会あるいは体育協会等々の皆さんがメンバーになっておりまして、都合 30 名の皆さんで構成されているところでございます。合わせて、鏑木さん、プロトレイルランナーの方にアドバイザーというふうに入っていていただきまして、コースの設定等についてご協力いただいているということでございます。

○3 番（佐藤作行君） それから、ちょっとこれは確認事項なんですが、コース設計料ですか、昨年 150 万円予算についておりましたが、これは町から直接その鏑木さんに支払ったんでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 町からご本人に直接支払うというのではなくて、町の方は補助金ということで支出をさせていただきます。全体事業費の中から事務局の方で鏑木さん、コースコーディネーターというんですかね、その方に支払いをしているということでございます。

○3 番（佐藤作行君） そうすると、実行委員会の方へは 450 万円支出するということですよ。

○企画観光課長（山本 公君） 町の予算でそのコース設計料みたいなものはみてございません。町はあくまでも 300 万円の補助金をこの実行委員会の方に出しまして、その全体の事業費 3170 万円の中でコースプロデュース料ですとか、その他必要な経費を賄っているということです。

○3 番（佐藤作行君） そうすると、あくまでも補助金は 300 万円ということですね。わかりました。

時間はちょっと早いようですが、締めにしたいと思います。これは、今年も 200 万円の補助金が付けてあるようですが、町長、やっぱり新しい事業をやった場合は、やったものを検証して、こうした方がいいとか、ああした方がいいとかということが出てくると思うんですよ。観光振興ですからね、これはぜひともしっかりやっていただきたいと思いますし、また、皆さんの税金から出すわけですから、やっぱりそれに沿ったような形の結果もやっぱり出さなければいけないと思うんですよ。そういう意味からもやっぱりやった後、検証をして、町の方のチェックを入れて、それで次の年の予算にやっぱり反映させていくという姿勢というのは必要だと思うんですが、そこらを簡単にお願いします。

○町長（齋藤文彦君） 佐藤議員の言うように、そのような姿勢でいきたいと思います。

ただ、この最初のレースが 70 キロ、1500 人という日本でもトップクラスのレースになってしまいました。それで、この実行委員の皆さんが非常に厳しいところにきていまして、ぼくは非常に心配しているわけですが、ある程度、実行委員がもうちょっと筋肉を付けるまではあ

る程度町の方で助成していかないとうまくないのかなと思っていますので、そのようなことを考えてやっています。

○3番（佐藤作行君）　そういう認識はあると思うんですよ。町長にも。それは別にどうこうすることじゃないんです。

　　だけど、あくまでも町の主な目的というのは、観光振興のわけでしょう。だから、そこをやっぱりその視点から見ていかなければいけないと思うんですよ。そこらはどうですか。

○企画観光課長（山本　公君）　25年度の予算の審議の関係につきましては、またこの後あるうかと思えます。200万円が措置されているわけですが、予算を作った時期、大会自体が今週末ということで、実績とかもまだ確認できていない状況ですから、大変申し訳ございませんけれども、このトレイルランの目的につきまして、観光振興ということは当然あるわけでございます、また新たなスポーツを通じた新しい観光の展開ということもございます。

　　議会での報告会等でもしておりますが、参加者が1540人ということで、観光協会を通しました宿泊者が1019人ということで、観光協会を通さない宿泊もあるということで伺っておりますので、1000の数を超えている人数でございます。

　　当然宿泊についても町内宿泊の方が多くありまして、宿泊だけでも800万円近いお金が落ちているわけでございます。

　　また、合せて、必要な経費の部分を町の中で調達するというのも考えますと、合せて1200～1300くらいのあいだの金額が町の中に落ちているということではないかというふうに思っています。

　　町長も申しましたが、全国でも屈指の大会、2013年のレースを見てみますと66大会あるわけなんですけれども、その中でもやはり1500人を超える大会というのは、うちのものともう一つあるか、ないかというくらい、距離についてもやはり大きな大会だというふうに認識しておりますので、これを機会にそういったレースが後々まで続けばいいかなと、そのレースを終わった後の楽しみ方が展開できればいいのかなと思っています。

○3番（佐藤作行君）　よくわかりました。

　　そろそろ終わりにしますけれども、これは本来だったら、ある程度形ができたところでやっぱり不明だった点あるいは未定だった点、決まった時点でやっぱりある程度全員協議会なり何なりで報告してもらいたいと思いますが、これは要望ですがね。回答はいりませんけれど。

　　これで終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

○議長（斉藤　重君）　以上で佐藤作行君の一般質問を終わります。



(午後 3時40分)

---